



今日のトピック 2017年の原油市場の振り返り 需給の改善等から原油価格は堅調に推移

ポイント1 堅調に推移した原油価格 2017年は約8%の上昇

- 2017年の原油価格は、主要な指標であるWTIで見て、年初1月3日の1バレル当たり52.33ドルから6月下旬の同42ドル台までの下落を経て上昇に転じ、12月下旬には同60ドル近傍まで上伸しました。年間では+8.8%の値上がりとなります（12月22日までの年初来変動率）。16年の年間上昇率+45.0%には及ばないものの、17年の原油価格は堅調だったと評価できます。

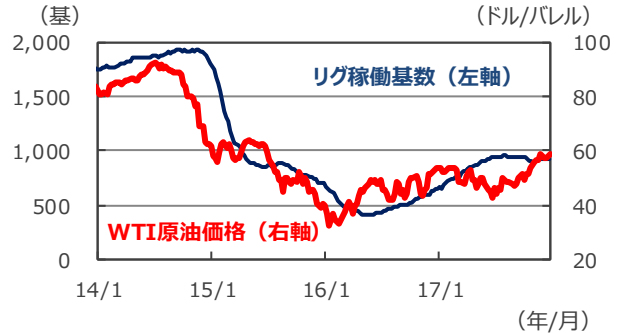
ポイント2 改善する原油需給 世界的な景気拡大で需要が増大

- 原油価格の上昇は、①世界的な景気拡大による需要の増大、②石油輸出国機構（OPEC）とOPEC非加盟国による協調減産の効果、③米国における掘削活動の鈍化等から、需給が改善したことによるものです。
- OPEC月報の17年12月号によれば、17年の原油需要は世界全体で日量9,694万バレル、前年比同152万バレルの増加、18年は同じく9,845万バレル、同151万バレル増となる見込みです。
- 一方、供給量は非OPEC産油国が17年：日量6,413万バレル（前年比同97万バレル増）、18年：同6,530万バレル（同じく同117万バレル増）と予想されています。従って、OPECが同3,250万バレルの生産枠を遵守すれば、需給はタイト化する見通しです。

今後の展開 18年も堅調な展開を予想

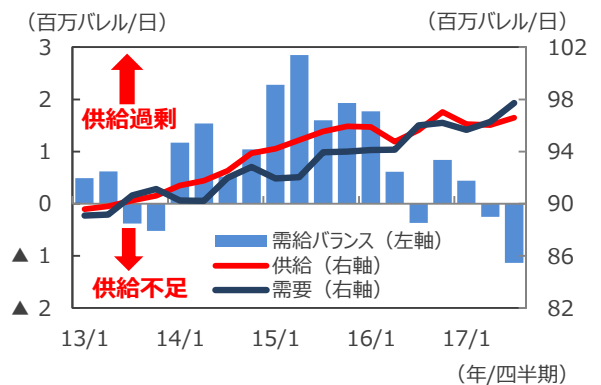
- 需給動向から判断する限り、18年も原油価格は堅調な推移が見込まれます。

【原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは原油価格が2014年1月3日～2017年12月26日。リグ稼働基数が2014年1月3日～2017年12月22日。ともに週次データ。WTIは原油価格の代表的な指標のひとつ。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【世界の原油需給動向】



(注) データは2013年1-3月期～2017年7-9月期。需給バランス＝供給－需要。
(出所) OPEC月報のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- ただ、原油価格の上昇はシェールオイルの生産増を誘発するため、上値は抑えられる見通しです。世界銀行編集の「Commodity Markets Outlook」最新号は、18年の原油価格を年間平均で1バレル当たり56ドルと予想しています（17年の平均価格は12月22日までで同50.73ドル）。

ここもチェック! 2017年12月 4日 OPEC、『協調減産』の期間を延長へ
2017年 9月19日 原油価格の動向（2017年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。